



## 本物に触れる 直接体験

園長 米澤 千秋

寒い日が続いていますが、季節は立春を迎えました。子どもたちは、青柳小学校の校庭をお借りして自分たちで作った凧をあげたり、ドッチボール、氷鬼、縄跳び、一輪車などをしたりして、戸外で元気いっぱい遊んでいます。

1月19日のワクワクデーでは、太鼓打 魁(てこうち さきがけ)の方々をお招きし、太鼓演奏や獅子舞を親子で鑑賞しました。保護者の皆様、ご参加いただきありがとうございました。



目の前に並んだ5台の太鼓。演奏が始まると、全身に響くものすごい迫りに子どもたちは驚きの表情になり、大人も子どもも一瞬にして釘付けになりました。そして、太鼓の演奏に合わせて登場した獅子舞にドキドキしながらも、無病息災を願って頭を噛んでもらいました。また、親子で一緒に行った太鼓体験では、顔を真っ赤にしてバチを早く動かしたり、格好よくポーズを決めたりして、楽しいひとときを過ごせましたね。日本の伝統芸能に触れる貴重な経験となりました。

翌週教師は、獅子舞を作ったり、太鼓を演奏したりして遊べるように、4、5歳児それぞれの年齢に応じた教材や環境を準備しました。



誰よりも早く「獅子舞作りたい！」と作り始めたのは、獅子舞を怖がり泣いていた4歳児のAさん。完成すると、友達が叩く太鼓の音色に合わせて、手に持った獅子舞を波打つようになめらかな動きで操り始めました。繰り返し遊ぶ中で自分の獅子舞に愛着が沸いたようで、名前を付けて大切にしています。

一方5歳児は、教師が掲示しておいた当日の写真を見ながら、友達と一緒に太鼓を本物らしく作ったり、自分が中に入れる獅子舞を作るにはどのようにしたらよいかと考え、工夫したりする姿が見られました。

どちらの学年も、“本物”の太鼓の響きや獅子舞の演舞に触れるという直接体験を通して心を揺り動かされ、その体験を自分なりに遊びの中で表現することを楽しんでいました。

心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにしたり、自分なりに表現して楽しんだりすることは、幼稚園教育の中で大切にしていることの一つです。“本物に触れる直接体験”は、子どもたちの豊かな感性や創造力を育みます。

今年度も残りわずかとなりました。「心が動き、体が動き、笑顔が輝く幼稚園」「親も子も楽しい幼稚園」の実現に向けて、引き続き直接体験を重視した教育内容の充実を図ってまいります。

進級・就学までの残りの園生活を、保護者の皆様もぜひ、お子さんと一緒に楽しんでください！



いいことがありますように！



太鼓と獅子舞 二刀流！